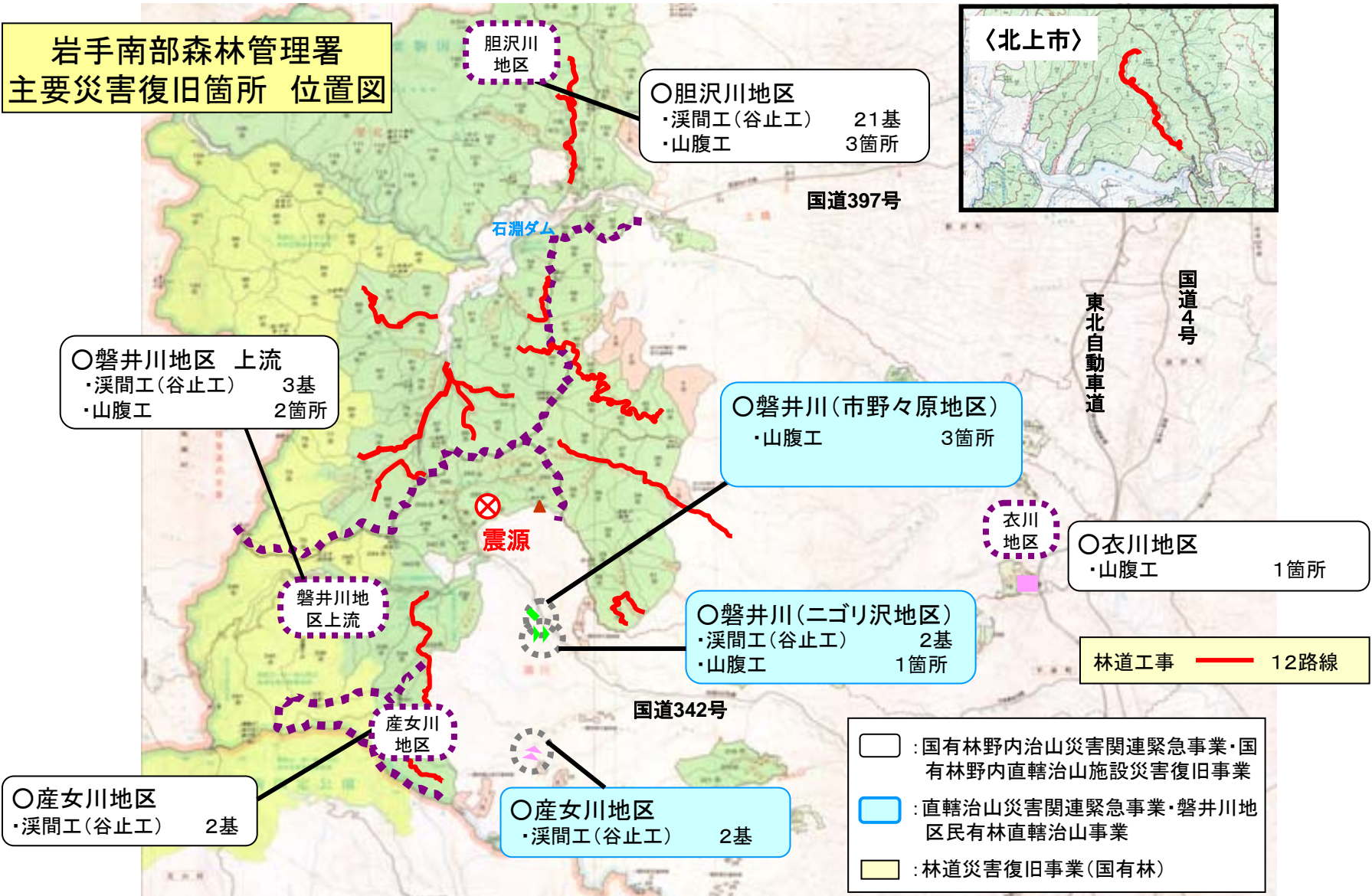


# 岩手県内の対策概況①(東北森林管理局 岩手南部森林管理署)

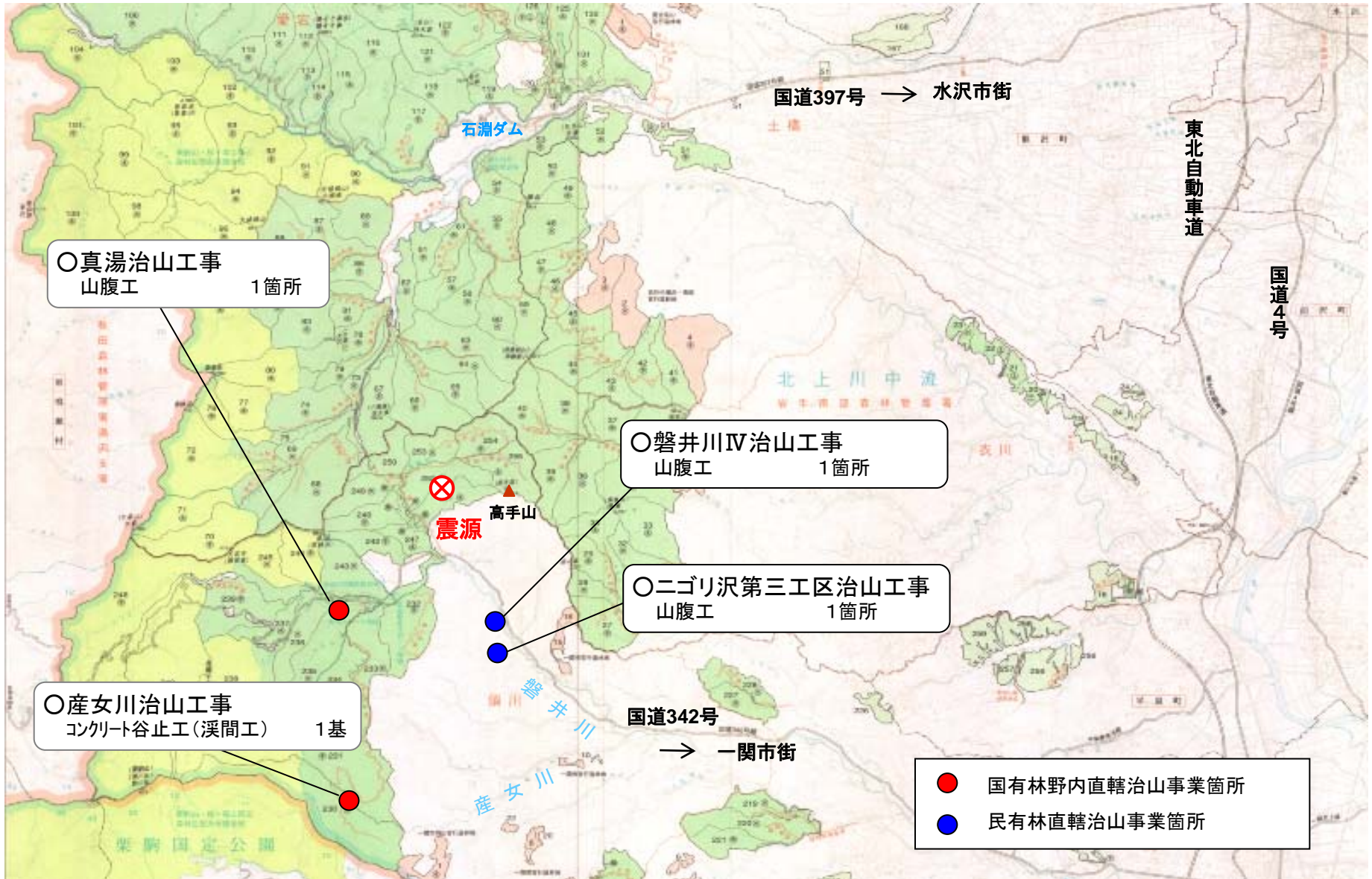
平成22年9月3日現在

平成21年度末までに、国有林治山事業で溪間工40基、山腹工6箇所、民有林直轄治山事業で溪間工4基、山腹工4箇所、林道災害復旧事業で12路線を整備しました。

## 岩手南部森林管理署 主要災害復旧箇所 位置図



平成22年度は、国有林治山事業で溪間工1基、山腹工1箇所、民有林直轄治山事業で山腹工2箇所を整備します。



被災地の復旧状況(溪間工)

【平成21年度までに完成した代表的な工事】

【工事概況】

震災によって荒廃した溪流において溪床を安定させ溪岸浸食を防ぐ谷止工などにより、復旧対策を行いました。

(産女地区  
産女川上流)

平成21年3月完成

平成21年4月に発生した  
土石流を止めました↓



## 被災地の復旧状況(溪間工)

### 【工事概況】

震災によって荒廃した溪流において溪床を安定させ溪岸浸食を防ぐ谷止工などにより、復旧対策を進めています。

### 【平成22年度の代表的な工事予定箇所】

#### (産女川地区)

産女川上流部崩壊地に堆積している大量の不安定土砂が下流に流出するのを防ぐため、谷止工を施工しています。



産女川で発生した土石流により桂沢林道の橋が破壊され、300m下流まで押し流されました。写真の[点線]内に橋脚が残されており、上部には土石流により堆積した土砂が厚く積もっています。



平成22年6月8日撮影

被災地の復旧状況(山腹工)

【 工事概況 】地震により崩壊した斜面の安定を図る山腹工を行い、緑化が進んでいます。

【 平成21年度までに完成した代表的な工事 】

(磐井川地区 東桂沢)

不安定な斜面を安定させるため法枠工を施工し、山腹緑化工を行いました。



施工前の崩壊斜面

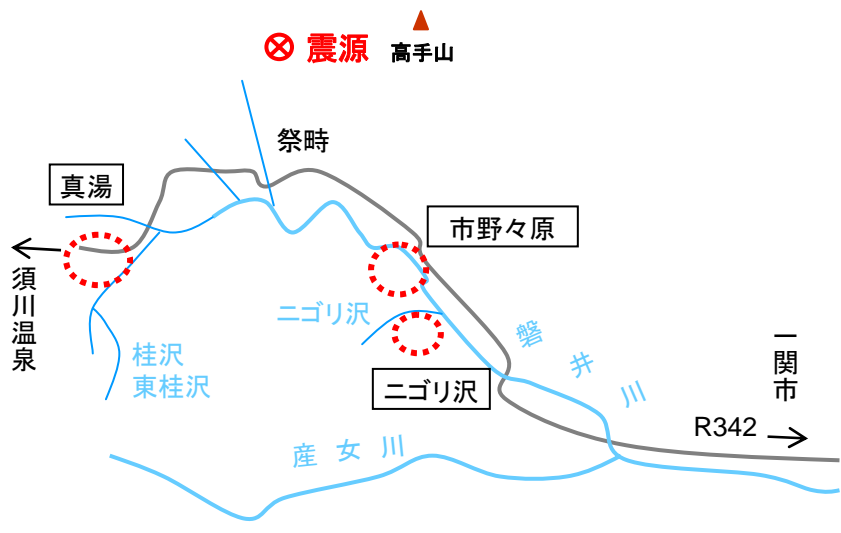


現在の緑化した様子

平成21年8月31日完成

被災地の復旧状況(山腹工)

【工事概況】斜面の安定を図る山腹工を行っています。



【平成22年度の工事予定箇所】

(磐井川地区  
市野々原)

不安定な土砂の移動を防ぐ土留工、緑化によって斜面の浸食を防ぐ山腹緑化工を行います。

工期:H.22年10月31日



□H22年度予定箇所

工事の現況

工区最下部の鋼製枠土留工が完成し、その上部に盛土をしています。

上部は安定斜面に整形し、広葉樹を植栽しました。

工区中腹の鋼製枠土留工が完成し、その上部の斜面に緑化基材を吹き付けています。



地震で倒れた樹木をチップにして植生の回復に利用しています。

災害復旧現場での環境配慮 — 被災地の倒木を活用した自然サイクルに近い森林の回復



災害復旧現場の森林回復

市野々原の被災地には、地震により倒れた被害木が大量にありました。本復旧工事では、この現地の被害木を有効微生物群により堆肥化し、緑化工の植生基材に活用することで、被災地の森林回復を自然サイクルに近い状態で行っています。

枯草菌  
酵母菌  
有効微生物群

植栽する樹種は周辺の植生調査を行い、周辺出現樹種と同じブナやミズナラ、ヤマザクラなどの広葉樹を9種選定しています。

植栽する苗木はすべて岩手県内産のものを使用します。



吹付直後の様子



樹木の植栽から2ヶ月経過  
新芽の伸長が見られ良好。

平成22年8月10日撮影

## 被災地の復旧状況(山腹工)

【工事概況】斜面の安定を図る山腹工を行っています。

【平成22年度の工事予定箇所】

(ニゴリ沢地区)  
ニゴリ沢

不安定な斜面を安定させるため法枠工を行いました。地すべりの原因となるすべり面付近の地下水を排除する集水井を設置しました。

工期:  
H.22年12月10日



木柵を設置して降雨による斜面浸食を防ぎます



工事の現況

排土工を進め、鋼製枠土留工に着手しています。

(真湯地区)

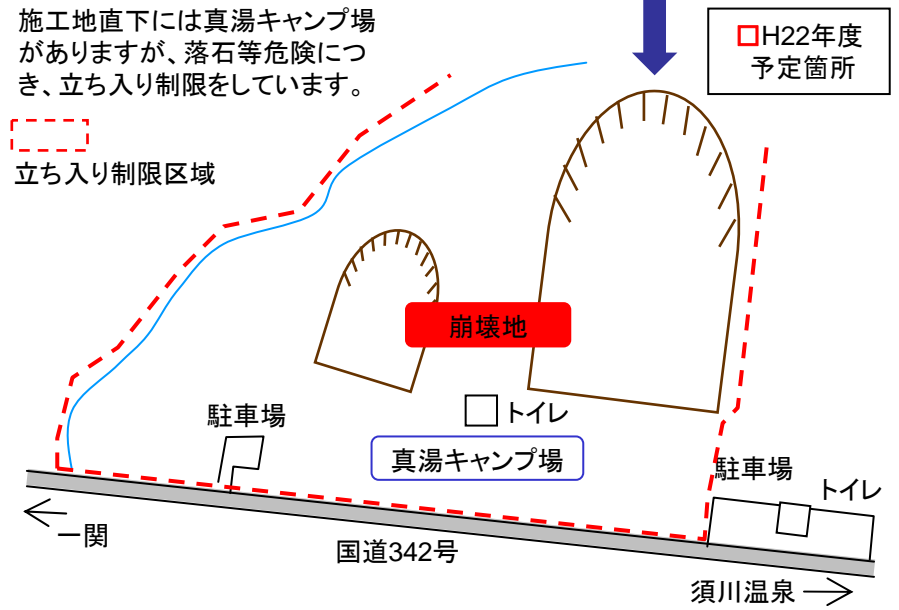
不安定になった尾根の土砂を取り除き、落石を防止するため石を除去し、緑化を行います。

工期:  
H.22年11月30日



施工地直下には真湯キャンプ場がありますが、落石等危険につき、立ち入り制限をしています。

立ち入り制限区域





林道の復旧状況

【工事概況】

地震災害のあった林道については、21年度までに全ての工事(12路線)を終了しています。

【平成21年度までに復旧した代表的な林道】

(大寒沢林道)



平成21年2月27日完成

(桂沢林道)



平成21年12月24日完成



(尿前林道)



平成22年1月28日完成

林道法面の緑化について

平成22年9月に法面に種子を吹き付けて緑化します。

緑化工は種子の発芽および生存率を考慮し、雪、梅雨、および夏期を避けて行います。

## 現地調査の結果



- ・磐井川・産女川・胆沢川 各地区に設置した土石流センサー、監視カメラからの情報では、現地の異状は確認されていません。(平成21年3月13日12:00現在)
- ・市野々原・磐井川・産女川・胆沢川・衣川の各地区の現地調査(平成21年3月12日)を実施しましたが、前回に比べ、被害の拡大は確認されませんでした。
- ・平成20年12月20日 第8回山地災害対策検討会を開催しました。  
市野々原地区地すべりについての対策を含め、岩手・宮城内陸地震による山地災害に係る治山計画のとりまとめが行われました。※山地災害対策検討会の資料等については、東北森林管理局のホームページ(<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/koho/saigaijoho/kyoku/kentokai/index.html>)をご覧ください。

## 安全管理体制の充実



### 【岩手南部森林管理署管内震災現場安全対策協議会】

復旧工事現場の連絡・調整及び安全衛生活動を実施するため、流域ごとに請負業者による安全対策協議会を設立しました。(5流域)

- ・平成21年4月10日に全体会議及び分科会を開催しました。

## 技術研修会での発表



### 【岩手・宮城内陸地震災害復旧技術研修会】

地震発生から1年経過した平成21年6月18日一関文化センターにおいて、大学教授、林野庁、国土交通省、岩手県等から震災復旧状況について講演がありました。

岩手南部森林管理署では次長が「岩手・宮城内陸地震で行った岩手南部森林管理署の対応について」と題して約400名の参加者の前で講演しました。